

博物圖

草木之部

八

和書門類			
四二二三二	函	架	冊
一四二二	函	架	冊
二〇	冊		

和書類	
四二二三二	冊
二〇	冊
九六二二三	架
九六二二三	架

内閣文庫	
番號	和 42232
冊數	20 (8)
函號	196 174



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



玉蘭 辛夷 瑤花 授木

— 玉蘭 —
— 辛夷 —
— 瑤花 —
— 授木 —
— あんまむめ —

雪柳 貝母 木瓜 杏花

— みやほまきみ

茵芋

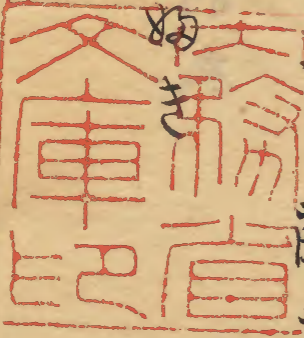
— かりやうまん —

— りうきう

ゆき

— 酔西施 —

— につき



— 梅の風 —

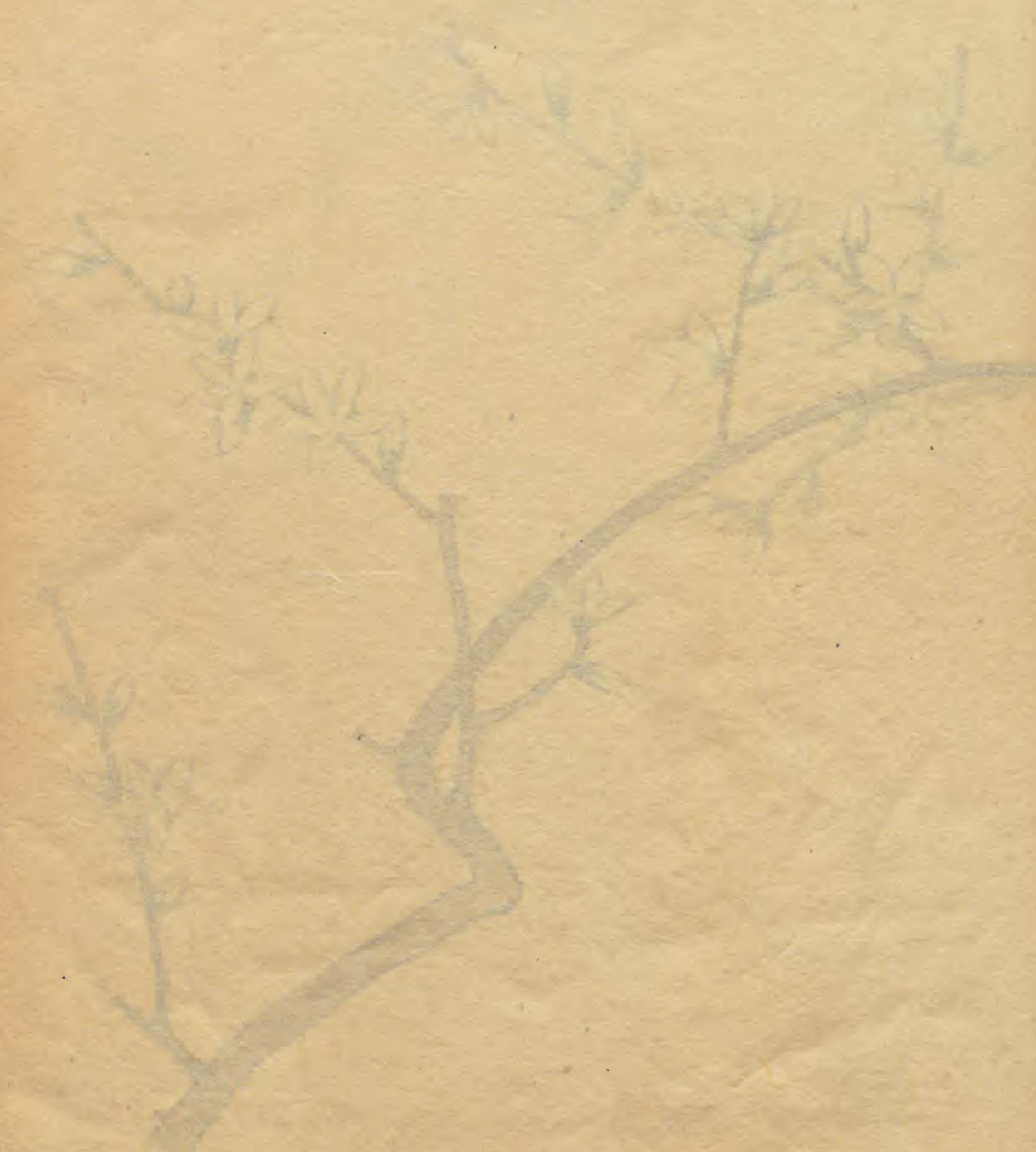
— たまぐえ

雲桑

— あつほまき —

— ね花満んさく

— さめかお —



一 物七かう

一 雪山

一 八重

一 江戸紅羽衣

一 根三紅

一 三國紅

一 両面紅

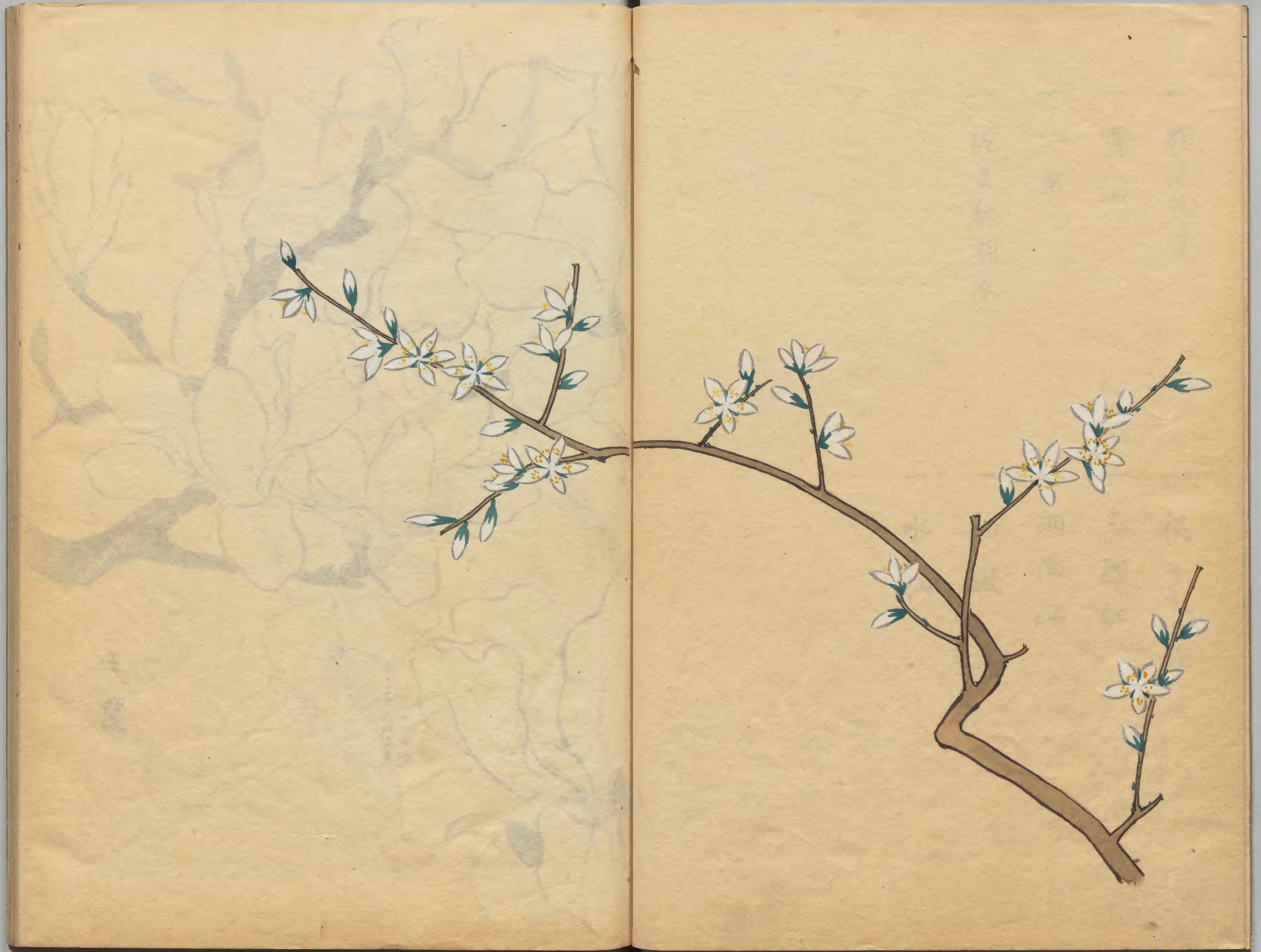
一 初風

一 水仙



Faint vertical text or characters, possibly bleed-through from the reverse side.

Faint vertical text or characters, possibly bleed-through from the reverse side.





玉蘭

三々として九瓣を
大々や此



辛夷



辛夷花

竹あはれさうりれあはれ
さうりれあはれ
あはれさうり

右原書之通

辛夷本經上品 辛雉經本 侯森 同 房木 同 木筆遺 迎春時珍曰夷者夷也其苞初生如蕞而
味辛也啓蒙曰辛夷マアラ、キ和名 コブシハシカミ上同 コブシコボウシ新 コボシ丹 一名猪心花說傳
望春同 報春花府志 朝天木蓮花藥性 朝天蓮上同 侯木野 流夷蘇氏 新雉王 既百詠 辛彘江 通南 づ
シハ山中ニ自生アリ其木高大枝條繁密枝梢ゴトニ夏ヨリ蕾ヲ生ス形筆頭
ノ如シ秋冬ウ経葉已ニ落テ後漸ク大ナリ白色微褐ノ毛アリテ小桃ノ如
シ故ニ釋名ニ木筆ノ名アリニ三月ニ至テ未夕葉アラズノ先ツ花ヲ開ク木蘭
花ニ似テホク六瓣白色ニメ紅候アリ一種浅紅色ナル者アリムラサキコブシト
云花史左編ノ紅石蕎本草彙言ノ紫蘭ナリ時珍ノ説ニ有白色者人呼為玉
蘭ト云ハ和俗白木蓮ト呼ブ者ナリ一名ヲホコボシ丹 波イトマザクラ南 即辛夷
ノ一種ナリ



辛夷
コブシ



即實



閩書南產志云木高數
尺花春開極香莆人呼
為瑒花瑒王名取其白
也山谷更其名曰山蕤
蓋上人取其葉以漆不
假礬而成色故以名耳





和名類聚鈔云茵芋本草云
因于二音和名仁豆々
 之一云乎加豆々之



大和本艸云深
 山芋艸葉ハシキ
 ミニ似タリ實紅シ
 高二三尺亦過
 有毒煎ノ菜蔬ニ
 ソクハ虫ヲコロス
 陰地ヲ好ム挾
 ミテ活ク



茵芋
和名仁豆々之一云乎加豆々之
 ママシキ



リウキウフキ
ベニブキ



伊豫ミツキ



日向ミツキ



土佐ミツキ





雲桑
夕ニクハ



もあやふと月明新〜
原書ノマ

月まんち
原書ノマ

仙問粟香云此木相州
 勿本ノ山中ニアリ花
 類ニノ蝦夷ニテド
 ト云木ナルカ或ハ
 シノオレカ



阿州方言クツノウト
 約言クオト、云山
 人ノ俗呼ナリ谷桑ト
 モ云

莖カバ色

此木東都藝家俗ニ紅花
 ノマシサウト云春初葉
 ノ發セントスルトキ梢
 頭ニ紅色フサノ如キ蓋
 出ル故ニ又フサ、クラ
 トモ云漢名ナシ

此樹ミヤマシキニ似テ異ナリ管根山中ニア
 リ此ミヤマシキノ一種瑞香葉様ノモノナリ
 葉々枝端ニアリ四葉或六葉一亦ニ攢生スコレ
 其本性ナリ漢名茵芋此モ
 ノ一種濶大ノ者ナリ葉ノ
 葉紅色美ナリ花實
 ナキ時ハミヤマシキ
 ミナルの識ルモノナシ



葉紋理ナシ
 小皺アリ瑞
 香葉ニ似タ
 リ長深緑ニ
 ノ裏淡シ

枝褐色ニ胡粉入
 小皺アリ先ノカ
 タ淡綠色ナリ



草木繪疑云即武府志云碧雪樹可二三尺葉似素馨花葉而尤細花亦細而白
 也時米碎花世俗呼之有結匪拿結者是也
 大和本草云望柳葉葉如揚柳細小ナリ枝多ク叢生ス高二三尺許無實根下
 落ス漢名未知知本日本冬葉黃花トアラレト鮮紅ト能染ルモノナリ又漢名
 春分ヨリ開クハ花ハ清明一候ニハ開キ難シコデマリハ殊ニ後レ也

噴雪花 ニキヤナキ
イハヤナキ

拾遺和歌集

いとや七草

藤原元成

梅のこころをば

かたむねをば

かたむねをば

いほやちまき

新陽明門院兵衛佐

今つたて花の飾をきしんくさくさ

何そハ雪は消のこけりらん



貝母



爾雅云樹木瓜
証實如小瓜酢可食
樹音茂

疏木瓜一名樹
郭云實如小

瓜酢可食詩衛
風投我以木瓜是也



カイトウホケ
木瓜一種



同上實



一種淡紅



杏花 北周 庾信
春色方盈野 枝々綻翠英
依稀映邛鳩 爛熳開山城
好折待賓客 金盤襯紅瓊

杏花 羅隱
暖氣潛催次第春
梅花已謝杏花新
半開半落閑園裡
何異榮枯世上人



杏梅

八重杏 三月三日 灌園子



杏梅 アシムメ

あんそむ免怡顏為梅品と稱するその枝幹花
實とくにあんそむ以多り花粉を各山々之乃の
梅小以そむ小猶大少く之れく心ききく満算を之
以花弁を之れを初め之れ花有り藥と梅よりそむ
多く之れを之れを實も杏に似味酸く去
達味酸かんと云ふ其常の梅より酸味そくるんを
とも杏小以く味酸きゆふ杏梅より

怡顏齋梅品云杏梅和名モキムメ アシムメ

梅譜云杏梅花比红梅色微淡結實甚遍有爛斑色
全似杏味不及红梅

康熙字典云杏唐韻何棟切集韻韻會下便切然音荇
說文果名格物叢詒杏實味香於梅而酸不及核與肉
自相同禮祭法夏祠用杏管子地員篇五沃之土其水
宜杏文獻通考杏多實不盡來年秋亦善又周禮司燧
註取夏棗杏之火又左思吳都賦李善註平仲果其實
如銀一名銀杏又北杏地名春秋莊十三年齋侯會於
北杏又神仙傳廬山有杏林董奉故里

杏梅

韋德圭

董林驀地暗香傳淡々紅芳照眼妍有客前前林來
問酒牧童誤指對花邊
達梅二味酸カラス花單ニメ淺紅也花至ニ落マヌシ
花ハ杏ニ似テ實ハ梅也

蘇西施



うりやうたん





梅の風



あつ乃にき





大和
本州云
瀉紅ニ
白キ
飛入
アル
ハ葉
大也

雪山



ふせう
花のそとありきやうふ
ふへて香あり





八重





根岸石

つゆ紅羽衣



両面紅



之國紅



初風



此を人々の正月中句所圖

真珠院庵あり六尺餘の本也真珠院ハ忍川の
如來寺の隠居少々天王寺中に住居して花を多く
植て牡丹も多く植置とつくとともに法く下名用ひ
此茶梅をいめて名あふまるとも名を呼ば

大和本州云茶梅山茶ノ類ニテ葉モ花モ小ナリ白アリ
香ヨシ山ニモアリ實ニ油アリ山ニ多キヲ村民取テ利
トス九月ヨリ花ヒラケ家園ニ植ルニハ淡紅アリ深紅
アリ紅ヲハ海紅トモ云共ニ本州ニ不載海紅ハ十月ヨ
リ二月マテ花アリ中華ノ書ニ載タリ冬花稀ナル時開
キテ盛り又ニ家園ニ可植子ヲマケハヨク生ス深紅ニ
白キ飛入アルハ葉大也



水仙花山谷
 淤泥解作白蓮藕
 糞壤能開黃玉花
 可惜國香天不官
 隨緣流落小民家

柔の及みそ
 あり希乞
 水仙花

水仙花山谷
 得水能仙天與奇
 寒香寂寞動水肌
 仙風道骨今誰有
 淡掃蛾眉簪一枝



玉玲瓏鏡花八重水仙





